

約20年をかけ、まちづくりを実現

平成2年「先祖代々から引き継いだ土地を最大限活かし、21世紀に誇れるまちづくり」を目標に準備委員会を立ち上げてから今日まで約20年。その間には、環境影響評価手続や都市計画変更、その他にもまちづくりに大きく影響する出来事が数多くありました。また平成13年4月に始まった造成工事は無事故・無災害で（無災害延べ労働時間1,702,444時間で厚生労働大臣より優良賞を受賞）完成させることができました。様々な魅力と個性を持つ街「新百合山手」。約20年にわたるまちづくりが一段落しつつある現在、このまちには新たな暮らしが息づきはじめています。

まちづくりの進行から継続

平成19年3月31日の造成工事竣工時点のまちづくりの進行状況は、計画戸数2,200戸に対し入居者は約1,300戸（60%）となっています。新組織となった町内会・新たに結成した「新百合山手・公園管理運営協議会」や街の運営管理組合による地域コミュニティの確立など、永続的なまちづくりのための仕組みづくりはまだ途上ですが、当まちづくりの基本である、「人・緑・文化を承継し、次の100年も継続発展していくまちづくり」が未来永劫続くよう関係者一同協力し、100年、さらには200年の未来に誇れるまちづくりを実現したいと考えております。すなわち、まちづくりはこれからの100年の時間（とき）を作っていくことだと考えます。

最後に

造成工事が竣工した今、組合員を始め造成工事、造成設計・まちづくり等にご協力いただいた方々に対して感謝申し上げますと共に、関係者で検討したまち並みの中を、老若男女、特に子供達にがにぎやかな声をあげながら楽しそうに歩く姿を見た時、現在に至るまでの約20年は、尊く、そして未来のまちに続く時間であったとの確信を深めます。私どものまちづくりによる「新百合山手のものがたり」は、今はじまったばかりなのです。

<事業期間中に行われたイベントの一部>

「第1回新百合山手のまちづくり 緑とコミュニティフェア（平成17年10月）」の様子



ビオトープ見学会



ホトケドジョウを探す子供達



植樹祭



地元和太鼓演奏会



ネイチャークラフトづくり



メイン会場の様子



芸術家 松本秋則先生による万福寺の竹を使ったアート作品



里山(2号緑地)見学会

「第3回新百合山手のまちづくり 緑とコミュニティフェア（平成19年7月1日）」の様子



平成19年9月13日に十二神社境内で開催された「しんゆり薪能」の様子



西幹線道路と戸建街区